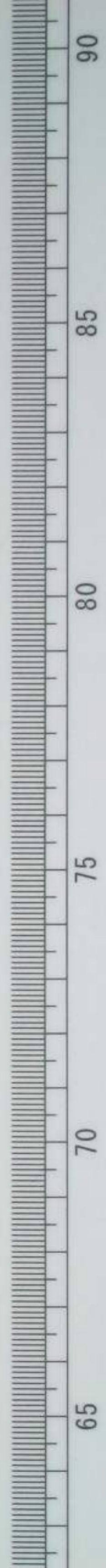


宮内  
伊勢參宮按内記  
地

特別  
A 3  
2724  
2





3  
2724  
2

伊勢桑宮按内記卷下



古市場 尾那坂乃末の町なり

先より宇治領より町乃中程たのちよ朝熊岳へ  
訪ふ乃道ありふせと坂主孫池をとりて楠部  
村一宇田村を経る朝熊村よむ村乃末よ坂  
ありろまより登山より解り

△申之地藏 古市乃次  
の町なり

古市乃差入より申之地蔵の末より一  
道入嶺れ長く連まるとゆへあ町を併せて長嶺と

安内下



いふあり又も宮のいふあり山ゆへ同いふあり  
いふありとたの方よ昔義とといふ巨るあり其形  
隙にて昔義を様へてやうにありとれり  
移りてとるく一大道より二許町ありあり

△牛谷 中の地荒乃あよほ  
ありとるよりと云

牛谷を下れを浦田町へ入ゆへは坂と浦田は  
とともいふあり

△浦田 牛谷乃坂より  
さへ人の町あり

△中々切 浦田乃次  
の町あり

今治の郷いふ井田畠田乃二郷なりそるの程は  
中々切といふなり右の方よ慶光院といふ  
宗の尼寺あり代と上人位に進むるあり  
さる親とを称せとてと人ともいふ也寺は蘭  
韓賊天女乃祠あり

△岡田 中々切の  
次乃町也

此町乃左の方よ橋あり新橋といふ橋乃あり  
の家居とるありを川原町といふなり東の山  
に西行上人乃寓居とるあり菴室ありなり



上人之後又經受一寺也予一三三三三三  
今之西行谷神照寺と稱し之比丘尼住持  
一三三三三三の庵に於て西行上人の御  
室も又都乃巽志つそとていふ三三三三  
宇治九里と云ふ寺人編く唱ふ三三三三  
秋やう乃口と云ふ三三三三上人乃御  
あつ三三三三やけ宇治も帝都より巽の  
三三三三三三三三三三三三三三三三

△岡田山神 岡田乃たの  
方り在

俗よ恩田の神と稱し其のまれとを古記にハ  
見し三三三三乃方に蕭寺あり天正年中ハ  
豊臣秀吉公建さつたまひ三三三三本寺不動明  
王なるゆへ不動堂といふ三三三三を次よあふ  
法樂舎といふ後宇多院乃勅願寺と云

△今在家 岡田よ續まろ  
町なり

△畑村 今在家乃西  
裏の町なり

△津長社一座 畑村乃西の  
山傍に在  
栖長比賣命

安下



△大水社一座 津長社乃南あり  
大山祇御祖命

右二座内宮攝社二十四座乃内なり

△林崎文庫 大橋乃西の山腹林崎

貞享四年に造立あり公儀より文庫取立料  
に兼金一百兩賜りたり於志しある軍持け  
合し造立ありまり始り林崎より南乃方  
丸山といふ所は速くは便りありとて元禄  
三年よ今の所ふ引移りたり凡社書記録を

藏り神習乃舎と事外宮文庫も同し  
林崎を鼓岳山の東北尾崎をいふなり鴨長明  
林崎鼓岳乃方を眺見て林崎舞ていひ  
西の宮川あり東よ又十龍川あり二つ乃川  
撲まきく一字乃堂ありこれと鼓岳に  
くくかきや

△橋姫社 大橋乃後

橋を身かす神を崇め祠まつくる人し神



詳々として

△宇治橋 長六  
十間

橋乃前後より大鳥居あり神宮前河に架し橋也

△館 橋乃下  
の町なり

館のいづれ外宮より

△祢宜宿館 一鳥居の  
乃方あり

十負乃祢宜宿戒齋籠したまふ館舎あり

△神庫 宿館の  
南に在

神庫文殿のいづれ外宮より

△一鳥居 神宮の  
入口なり

是より弓筋兵仗佛具と禁より事外宮より

△手水場 一の鳥居より  
入る所の流也

五十粒川の流水をよみ揃ふなり

△五十粒川 神宮山より  
流れるなり

大宮と風宮とれは皆流より流れるなり

川とのり鏡石の方より流れるなり

といつりま川乃流合を河合といふなり

一河この名あり一河乃流水を五十粒川



清雲濯川と名給ふといひり昔大神詔言ひ給ひ  
 て伊勢加佐波夜乃國を美宮所なりを云ふ  
 まりて天より金鈴五十口投降し給ひし  
 所なるゆへは五十鈴川と名給く又五十鈴川よ  
 り遷幸たまへ給ひし時河後ゆへに倭姫命  
 降雲乃齋けりきりて濯ひ給へりし所  
 雲濯川といふを倭姫命世紀に見えり

新古今集

前中納言匡房

君代のくはりては五十鈴の川に流るる

新千載集

荒木田守藤

水の上のくはりては雲濯川の流るる  
 又けあは鏡石といふ巖石あり石面磨く鏡よ向ふ  
 しく人影のうはまらるる雨行るるゆへは鏡を  
 又い山鏡といふまらるる水場乃向ひに路あり  
 宇治橋より二十七町あり

被所

一鳥居より差向ふ  
 形直り乃石置也

被所平水場のまらるるを大庭といふ昔は三祭禮  
 又勅使し所より修禊ありとまらり今も



奉宮乃時け形を過ぐに修禊を念ぐる此の  
あふとや

△二鳥居 一の鳥居乃次  
の鳥居なり

勅使官司奉向の時け所より大麻清地儀を  
献する事外宮と同

△廳舎 二の鳥居よみ  
て左の方を

廳舎乃いこれ外宮に同

△一の殿 大道の左  
乃方よを

古記より長と五間と裁くとも今の殿と三間

志て柱十本ありさるゆへは俗に十柱の殿とい  
たり昔も主神司殿九本殿乃二字一殿なり相  
違ひて共よ捨皮葺かるとや神の代換り  
ありし外宮は同

△御興宥 大道乃右  
の方よを

斎王乃御興を宥一垂乃殿なり又春日に  
お事行事と御興宥ゆへにわらうの例なり

△玉串所 御興宥より第四乃  
門に懸るの傍也

いこれ外宮は同







絶つりしを慶安遷す乃何翁王候殿一々  
浄再興ありし也

△石壺 乃左右より

鳥居の東乃腋より勤使官目の石壺西の傍  
にあつた祿宣十人并小玉半之内人乃石壺あり

新千載集

荒木田延成

櫛として八つの子つふしきし悉くを移す内の人  
上代祿宣一人も勤仕ありしに次第は加補志  
たまひては何れ八人ありしゆへ八の石壺とよみ

あるへしを後又加補ありて今十人までとる也

△第三鳥居 玉串門 乃右に在

此鳥居を舊記より第三門といふ

△八重櫛 第三の櫛 乃右に在

八重櫛の三鳥居乃左右の櫛を編て附くも  
のさり櫛乃枝敷ありし事なる儀式帳  
裁て詳なり

新勅撰集

荒木田延成

八重櫛志事記ありし事なる儀式帳なる



△玉串御門 第二の鳥居  
乃内よりあり

此清門之第一の清門と内玉垣清門とを玉串御門と云ふなりその外宮は同一の清門に附く玉垣なく絶つるを寛文遷宮の時清再興ありしより後玉串御門の清門乃前にして拜しなむと也

△蕃垣御門 玉串清門と瑞垣清門との間乃小門なり

此清門の俗より猿頭さるかぶの清門なり

△瑞垣御門 蕃垣御門の傍よりあり

瑞垣此清門に附くゆへ瑞垣清門といひ又内院清門ともいふなり寛正遷宮乃時此清垣四方各一丈はく廣まるしと云

△正殿 神三座

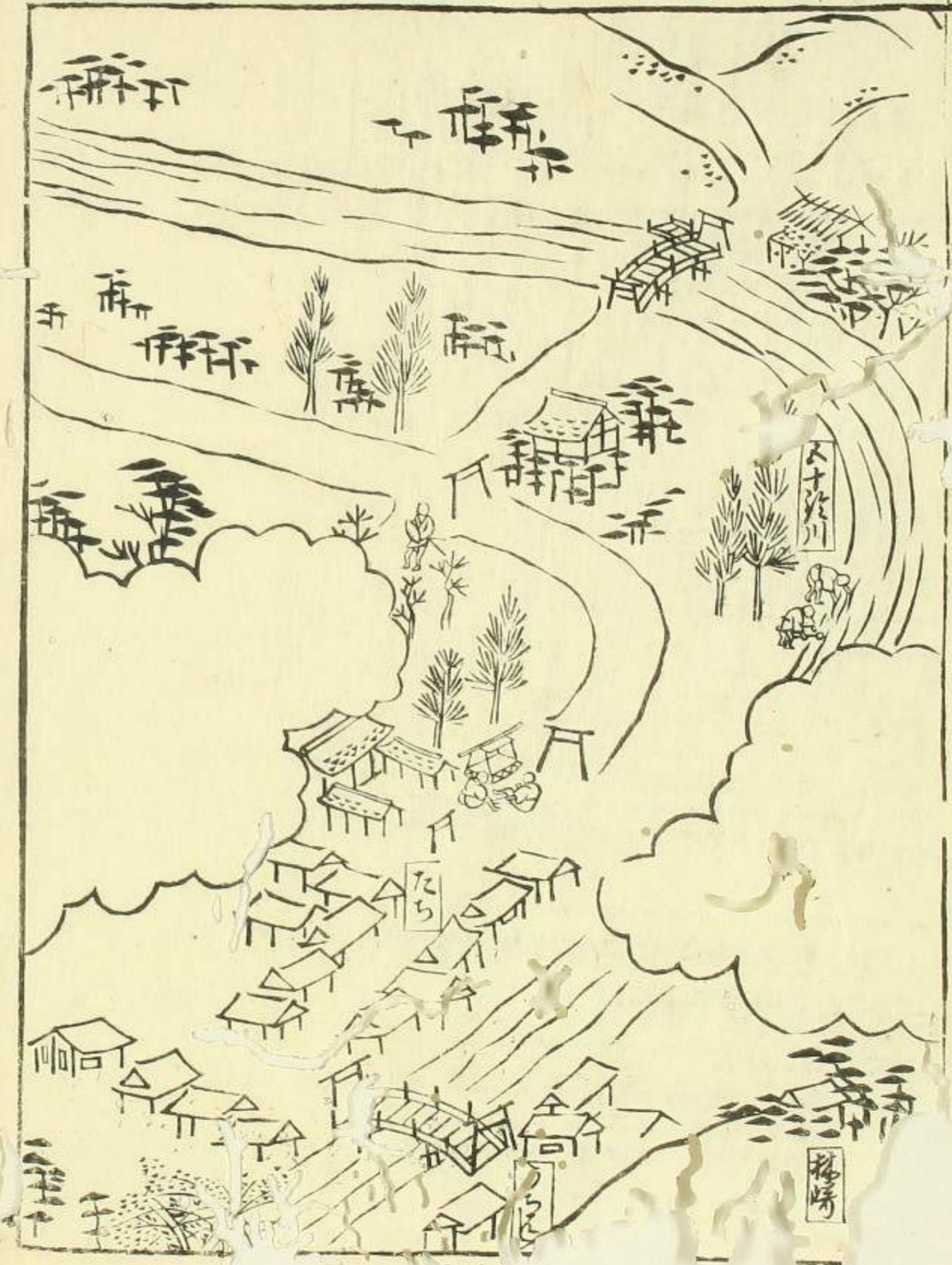
天照皇大神

當宮を内宮と云ふ五十鈴宮と云ふ申しなむ外宮の朝日宮ともいふ外宮清鎮座の前身は渡邊宮ともいふしなむ垂仁天皇六年に五十鈴川上乃今此宮所の清鎮座なり

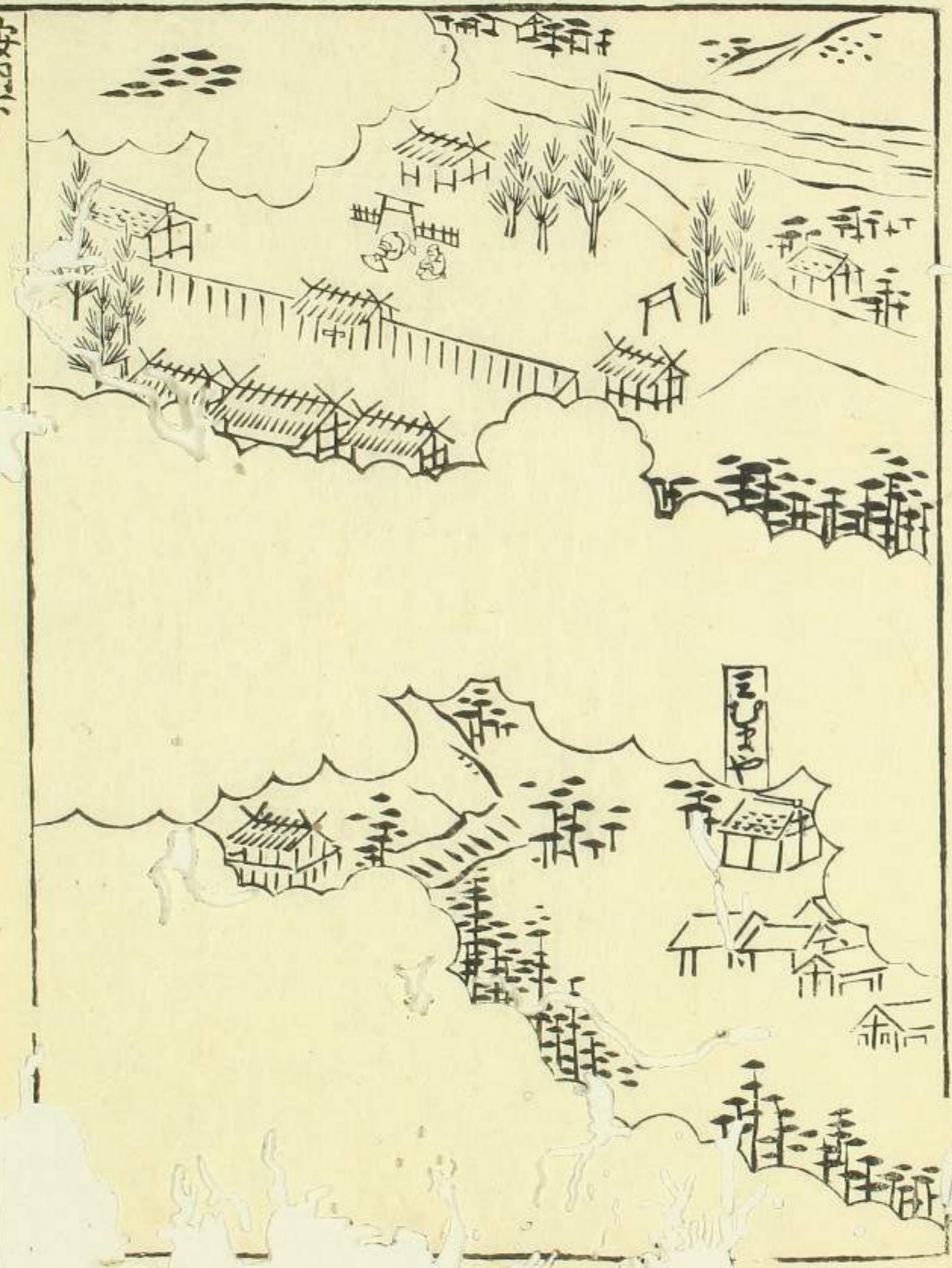


宮内

横所



安下





ら勢たふりたり清遷宮乃摸範心清持  
祢そのいこれ外宮は回

△相殿神

東 天手力雄命

西 万幡豊秋津姬命

相殿乃いこれ外宮は回一えり天兒屋命大  
玉命の二神相殿は清坐せうと色白  
宮の相殿は清坐一きまふゆへ大神の清託宮  
は依と外宮の相殿は移しまりたまひて後天

手力雄命万幡豊秋津姬命乃二神を本宮の  
相殿は祠とまりてむ座の左右は命を合集  
こまふたりは赤深と想ひ此おりたりと

△東寶殿 正殿の東

△西寶殿 正殿の西

いこれ外宮は回

△八十末社 本宮乃清宮より

外宮四十末社乃下にくりてを

△西鳥居 玉串御門乃西



此の居乃志れ居る事よありしに  
よの南の鳥居乃権左の居る事よありしに  
此の居と心得る人ともありしに

△外幣殿 西の鳥居乃外玉  
乃の坤の方よ在

いこれ外玉は同一此殿外宮は  
方よありしをを世酒乃も居の外  
方といふゆへよりありし

△荒祭宮 遥拜所 本道より左乃  
方よ石壺あり

三の禮よ勅使の司祢言け所なり

此の居乃志れ居る事よありしに

△清福清倉 興玉祓の拜所  
乃向いあり

清福を納家の清倉なり俗に清福殿と  
也昔に外幣殿に清倉乃北の方正殿乃  
建くけ清福清倉乃南よ相並ひて清福清倉  
式帳ももを四宇の清倉と載り

△興玉石壇一區 此乃乾  
の角よ在

猿田彦神



△重葺清門 正殿乃重葺

瑞垣は附く水乃清門より正殿の裏よりなる

清門ゆへに俗に重葺清門といふなり

△荒祭宮一座 本宮乃北の坂乃よりなる

瀬織津姫命

天照大神の荒魂神より内宮第一の別宮よりなる

ゆきまの又天疎向津姫命とも申しなる也別

宮は皆萱葺より千木鯉木清門清垣を

△外宮遥拜所 荒祭宮乃西の方の石壇なり

け所にし外宮を遥拜しなる又遠方より清坐を  
内宮乃別宮を遥拜しなる也因る五所乃別宮  
をあり記とたり

△伊佐奈岐宮一座 月讀乃宮也内西の方に在

伊奘諾尊

伊奘冊尊

二神清同殿は清坐を舊ハ伊佐奈岐社と申した  
貞觀九年に宮號を宣下した事にして伊佐奈岐  
宮と申しなるなり



△月讀宮二座 宇治郡中村

月夜見命

荒龜命

本宮より十八町許北の方より延喜式に去大神宮三里と有六町を以て一里とす

△瀧原宮一座 宮川の水工野尻村

速秋津彦命

△瀧原竝宮一座 瀧原宮乃西の方

速秋津姫命

野尻村之伊勢と志摩との境の中心より内宮より十里半あり

△伊雜宮二座 志摩國桑志郡磯部村

伊佐波登美命

玉柱屋姫命

内宮より三里と同一の地は大歳社と申す俗に高宮といひ大神津鏡彦乃比伊雜宮上鞆原乃中ふ鳥の嶋新宮をり倭姫命ありみ孫ひて大幡主命と舍人紀麻良と云差傳



て見たりめちつを生くるかの一基のく末の年  
猶も茂まる稲を白真鶴吐持くめくりなる  
鳴しと見わくつとれと鳴聲止る代即返事  
申しけきと倭姫命悦ひ給ひて事向ひなる  
田作りと皇大神は奉ふものと詔ひて稲穂  
を伊佐波登美神をて授徳は授めて清前  
にけ其穂を大幡主の女乙姫は清酒小作りし  
めて清饌始め奉ふ彼宿乃生る所を千田ゆ  
號け其所は伊佐波登美の神宮と造りて皇大

神の攝宮こと伊雜宮是也彼鶴真鳥と大歳神  
と名くや倭姫命世記に見えたり  
右乃別宮を遷拜し終りて石礎を降して目洗ひ  
水の流をよとらて攝宮よ奉る

△櫻宮一區 大道乃左の  
方のる壇也

花開耶姬命

小朝熊六座乃内櫓大乃自神を宿まり又攝宮  
希とをいひ寶殿をさくく唯一本乃櫓を  
清神躰と崇むるなら小朝熊六座乃内櫓

安内下



五柱の空神を併せ拜とるなり

續古今集

西行法師

神風よ心やとくそまうせけら揃ひをみれたのころり

△忌火屋殿 櫛官乃東  
の方み

淨饌を炊きさなるの殿なり古くは檜は葺に

四面よ垣ありて南よ鳥居ありとるなり

△朝廷遙拜所 櫛官乃西の  
方の石壇也

朝廷乃御恩徳を遙拜しとるなり所なり

△由貴殿 一殿乃  
後よ

三祭禮毎よ其前由貴乃淨饌とよ深松の

淨膳を供進とる乃料物を納り淨食とるなり

由貴殿や結とるなり

△酒殿 由貴殿乃西  
の方あり

神酒を納り乃殿なり

△子良館 二鳥居よへく石乃方  
櫛官乃櫛のそなり

子良物忌父乃室館なり

△五十鈴川橋 長二十  
七

俗よ風宮の櫛とよ櫛乃末たれ方よ乃櫛あり







按内下

儀式帳名社十五所の内より清遷宮時神  
寶を清めまゝの所なり

右の順は泰信とて人の是より一の所居はわ  
社官の宿館乃信の横路より清既より

又風宮指を返して直ぐ中道におもひの  
館乃水の方北並木の探めおもひをりて清既

より別ふあり

△御厩後町  
に在

古く内乃清既外乃清既とて二所より

内乃清既ハ真まの石壇乃ありしりゆを

今ハ絶り今ハ清既ハ外の清既なり

△高倉殿清既乃後の  
石壇に在

清遷宮乃時古く船代清神寶たこと乃朽損

しつゝ成細めまゝ清倉の趾なり

△神路山宮城乃南東  
に廻りて在

内宮乃清山の總名なり宇治山とて天照山とて

磐日山とていふなり

千載集

圓位法師



あつく今く神路の心願を現又よとさるる神の御  
百枝乃松の内宮に清神木をうとしの傳はまことと  
何まの雨よありたるもや今に知る人なり

風雅集

大津門院小室相

神道心百枝乃松も更よ又葉ふはあつたつとく

拾遺集

荒木田成山

神垣や百枝の松はあつたつとく

△山神 宇治橋の東  
乃山に麓を在

大山祇神を祠とまわつとる此所とて

といふより凡庸の習にはやけ社よのこころ居を  
あまうこまきあつたつとくゆかやありたるは  
乃俗をよ館錫を移りと取く者多し美味に  
て名産といひはし

△石井神社一座 石井田  
山よ在

高水上命

又農社ととも申さる儀式帳の社十五所乃ゆかり

△荒木田氏社一座 石井田  
山よ在

天見通命



舊の田を郷よありてをいほまのびる井田に  
に移されしとや田をよの舊趾なりなる

丹官系緒終りて山神より宇治橋より下向  
とへしあり初終岳は後でんとあり入る山神の  
た乃方の心路につとて後へ終る山巔門  
前より下桑所あり宇治より其所より六十町  
あり楠を味一字田味朝終味とてなり乃板  
路ありとそ味毎よ茶店ありたを楠を初終の  
村屋を見下しとて溪深くして心路溢れぬと

聖めを伊勢乃海づる遠叡のまは海宮の  
まろく刃えりて風景いそんくま一山を  
勝峯山といひち成金剛燈寺といふ下桑より  
二王門本堂まて塔頭連なり覺を比へし  
希有乃梵刹たり本堂のあり連珠池といふ  
池あり佛牙堂明星水といふを經く奥院  
よふふ院を吞海菴といふ菴あり其臺あり  
下に二見乃浦あり目を窮むる富士山を見え  
く釋の村菴歩とて移さるして作まらる詩



曾聞人説思重と香海菴前望士峯四十由旬  
半空雪雲間一朶玉芙蓉は曇り富士見  
人まじ詩情を識らるる一富士見ざらんとは  
待情を識まん人ま富士の形容を識るる  
といふ人ありとあ信終りてく帰るよは休乃菴を  
より直に初熊村に降りて下桑より菴まで  
五十町味より菴まで五町の五町ありといふ  
俗に又ま宮と初熊岳はあ信をさうといふ  
三宮とるといふを甚倅事なり初熊岳の寺堂

まはてを併して三宮といふるは法因  
より三つを併して三宮といふるは法因  
より三つを併して三宮といふるは法因

△初熊村 初熊岳  
乃菴也

初熊村より西に二見に行道あり橋合宿を  
船越めり三津村におく三石濱におくま  
ける五十町あり又初熊村と一宮田村との間  
岐路あり左の山田道右の奈海道なり

△麻海村 初熊村乃  
麻あり



△朝熊社六座 麻海村東 乃山よふ在

櫛玉命

保於止志神

櫻大刀自神

苔虫神

大山祇神

朝熊水神

儀式帳より櫛玉保於止志大山祇を除て二座と有り内宮攝社廿四座乃内たり又小朝熊社

とくを鏡文とてしかりと也神社の山上に三つと下  
坤方乃汀の岩よ神鏡二面坐して風あり  
雞をく汐まを沈まに流し流まことして鏡り  
坐とと神鏡沙汰文よ見えたり又岩よは神  
木乃櫛玉坐懸てありくるとつひ傳ふと云  
神鏡の清座も櫛玉もつらふれといつれ乃岩と  
つ事とてと考る小朝熊社と神前社と  
山よよ並ひ立給ひくを祀世乃流しと云  
あつを文月精長智彦山よ一社水涯よ一社



造<sup>つく</sup>りしな<sup>なり</sup>り鴨<sup>鴨</sup>長<sup>長</sup>明<sup>明</sup>存<sup>存</sup>海<sup>海</sup>記<sup>記</sup>も<sup>も</sup>朝<sup>朝</sup>慈<sup>慈</sup>川<sup>川</sup>を  
る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>書<sup>書</sup>川<sup>川</sup>乃<sup>乃</sup>横<sup>横</sup>根<sup>根</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>所<sup>所</sup>あり<sup>あり</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>上<sup>上</sup>の<sup>の</sup>西<sup>西</sup>乃<sup>乃</sup>  
と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>小<sup>小</sup>鏡<sup>鏡</sup>宮<sup>宮</sup>あり<sup>あり</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>入<sup>入</sup>利<sup>利</sup>

續古今集

赤陽の院哉

神<sup>神</sup>とい<sup>い</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>身<sup>身</sup>代<sup>代</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>り<sup>り</sup>わ<sup>わ</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>朝<sup>朝</sup>慈<sup>慈</sup>の<sup>の</sup>宮<sup>宮</sup>

風雜集

大中臣宮

ま<sup>ま</sup>風<sup>風</sup>の<sup>の</sup>定<sup>定</sup>根<sup>根</sup>の<sup>の</sup>探<sup>探</sup>吹<sup>吹</sup>さ<sup>さ</sup>ひ<sup>ひ</sup>は<sup>は</sup>浪<sup>浪</sup>乃<sup>乃</sup>花<sup>花</sup>ら<sup>ら</sup>朝<sup>朝</sup>慈<sup>慈</sup>の<sup>の</sup>宮<sup>宮</sup>  
朝<sup>朝</sup>慈<sup>慈</sup>村<sup>村</sup>より<sup>より</sup>二<sup>二</sup>見<sup>見</sup>浦<sup>浦</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>に<sup>に</sup>  
一<sup>一</sup>宇<sup>宇</sup>田<sup>田</sup>村<sup>村</sup>乃<sup>乃</sup>花<sup>花</sup>を<sup>を</sup>経<sup>経</sup>る<sup>る</sup>楠<sup>楠</sup>部<sup>部</sup>村<sup>村</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>に<sup>に</sup>又<sup>又</sup>朝<sup>朝</sup>

慈<sup>慈</sup>村<sup>村</sup>より<sup>より</sup>麻<sup>麻</sup>海<sup>海</sup>村<sup>村</sup>は<sup>は</sup>行<sup>行</sup>て<sup>て</sup>朝<sup>朝</sup>慈<sup>慈</sup>の<sup>の</sup>社<sup>社</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>に<sup>に</sup>  
一<sup>一</sup>宇<sup>宇</sup>田<sup>田</sup>村<sup>村</sup>乃<sup>乃</sup>花<sup>花</sup>を<sup>を</sup>経<sup>経</sup>る<sup>る</sup>楠<sup>楠</sup>部<sup>部</sup>村<sup>村</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>に<sup>に</sup>

△楠部村 一宇田村乃  
次の里なり

こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>村<sup>村</sup>の<sup>の</sup>入<sup>入</sup>口<sup>口</sup>は<sup>は</sup>乃<sup>乃</sup>方<sup>方</sup>る<sup>る</sup>森<sup>森</sup>あり<sup>あり</sup>新<sup>新</sup>名<sup>名</sup>所<sup>所</sup>新<sup>新</sup>名<sup>名</sup>所<sup>所</sup>新<sup>新</sup>名<sup>名</sup>所<sup>所</sup>  
よ<sup>よ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>所<sup>所</sup>あり<sup>あり</sup>杜<sup>杜</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>所<sup>所</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>所<sup>所</sup>あり<sup>あり</sup>

△大土御祖社三座 右よま  
森小在

大國玉命

水佐佐良比古命



佐佐良比賣命

又是を所見社と云ふ也

△國津御祖社二座 大土御祖社地乃内良の方に在

宇治比賣命

村田比賣命

其より内宮攝社二十四座乃内なり

右ふし森乃巽の方に清常供田有る、毎年五月に大津田の神事と云く清田極あり

是より桂部川をさうろろ五十能川乃流きの末

なり南乃方に尾崎村あり、橋をさうろろ楠部村

を過向と女森をたよ見とくは源池を越てふれ

とよあつと古市場におて山田小塚あり



二見陸路

△河崎 山田より東北よ在山田より二見迄五里有

二見乃浦を流る濱より河崎行大橋とて

て方の方へゆき久志中村の末を過り神田村とて

二見とて二軒若宮を過り山田吹上より小氣橋を過り神田村乃末を過り二軒

若宮を過り道若宮を過り此の末は若宮あり

黒瀬村の氏神乃社ありとて黒瀬村乃末を過りて

の方より里あり通村とてふなり

△鹽谷 二見郷乃末より入海也

俗は志のいとの二見郷は越前縣にあり

干しつる時を歩りしとて濱をかり後場乃頭は茶

屋一軒ありた乃方にきくふ兩大神の神壇とて

乃濱を見たる方小石とて巨石とて塩谷

を越て一と町ありとて方の方に打越濱よりあり

本道より八町小なりとて乃係は打越濱とてあり

割とてきくつりた乃方に溝は村也

△山田系村 塩谷のより入乃里あり

け村乃道の右に密嚴寺といふ禪寺あり寺乃

南に五峯山といふあり若宮を過りて五箇より



にまろつふたり

△御塩殿 庄村の北よを

△山田系村乃入口丸の方に道あり清塩殿にま  
て立石濱へおつゝ二町乃まわりたるを兩大神に  
朝夕供進ふの清塩を燦て納め壘の所あり

△西行法師の舊跡 山田系村の南乃方よ在

あり法師乃住まひもさうも今なき

△三津村 山田系村乃次の里なり

朝熊より直よ二見浦よ移くよ塩倉乃上の船

を載してけ村よお中道やへりよさうてまよ  
ゆくたり

△伊勢の三郎舊跡

三津村乃山林よ竹林ありて常泉院といふ  
まあり伊勢の三郎義盛いまも義経よはかたか  
ひおよ学問所也といひ傳へり山腹よ岩  
石あり義盛の視石也といふ今も昔もま纏ひ  
視くとも見くともぬるなり

△立石村 立石崎乃名



押内

比屋いやくこれ葉はををなり強飯こいひめ能饒あぢをを名な物ものとと  
田い系けいより清せい場じやう敷しきよあつくまけ村むらの入口いりぐちは乃  
方かたよゆる也

△堅田社一座 直石村乃おとされ  
の森れ内りあり

佐見都比女命

直石村をこぎく道乃右よ遷拜殿あり

△音無山 まゑの若  
の山なり

笠頂かさたけよ一本の松あり近國より見こむるはあま  
なれは渡海わたうみの目めより一とちうらりの野の長命ながいことの作

傳記でんきよ二見の音ねをいふへくのちつと遠とほふ  
海うみ心こころを見つ東あづまより春はるの遠江駿河とほへしんを  
こて富とみ中なかつ乃山のやまやれつていふも良よいあり  
甲か好こう女にょれきつ糸信いとのぶ濃ののこころあり水みづに赤あか尾  
張はり乃のひびきのよより加か加かれ白しろ山のやまも靴くつをた  
のこ糸いと麻あし乃のこころ山のやま西にしの布ぬの引ひ山のやまあり山のやま又  
伊い賀が乃の國くにれひんもあつたつて伊い賀が乃の國くに  
志し麻ま乃のこころなりとつて一いつ面めんを  
際ぎはは鏡かがみのこころ面めんを海うみ系けいより遠とほふあり

押内



まろく馳政うらむりたふさあまり

△立石崎 江村よりゆく  
るの備あり

ま本集

西行法師

まろくをいさむる傍乃ら白波のあしむらふもいさむる  
け水濱より遠く浪をあまて標し濁りたるま  
ふらり凡潮を潜りて身をまよひし乃水濱に二  
見乃内而もまよひしと標し入の垢離なる  
留けたる傍よらむらむら地帯へしてまよひ  
ゆよの傍をこころあまらむらむら

△興玉石 立石より二町  
作沖あり

潮干にの刃を満ぬれをいさむ

凡乗船して二見の浦へゆくと名をいさむ

と人さよの河傍にいて船をかり大橋より小橋の

下より乗あむら

△河崎 出

昔の河をこの里といつら又け川能をそえく傍の  
川といふあり

新久所教合

若本園長興

安下

荒



みづうりやの置れあり入らば  
河津より三津濱よりふかき村へ  
まうら

△神社村 田尻竹鼻村の北の方の村あり

け村を船着けし人家稍難く山田より  
後濱より行るこまはけ村より船よ  
右の方の岸よ少数株の松あり  
様ふ一本を十貫松といひ傳へ

△御食社一座 神社村

速秋津彦命

外宮攝社十六座乃内あり

△今一色村 城濱の前あり  
所二見村の内あり

け村乃あり右へ入海あり南よ向い  
常のこま二見郷をま廻りて江村  
て大海といふつよなる也

△大湊 城濱の北海を  
備て向いあり

人家多く倉船つといて稍繁昌  
乃好ま

△志賣屋社 大湊乃入口道  
右の森れゆあり

下



儀式帳名社八處乃内より社名詳をうらむとて  
八幡宮ありついでの時よりと程ひ祠まゝりや社  
人一家何と

△塩合よよ  
出

五十鈴川乃流き乃末けよよ流ありついで村の  
乃入海といふのよよめて流くる潮と今一色村乃  
方より入来る潮とけ所より行合ゆよ塩合流と  
いよるる海

交本集

鴨長明

月い今ひつ河の雪消てひりともみらぬ塩合乃流  
塩合を載てた乃入はよよ鳥帽子折鳥帽子といふ  
二乃乃岩ありけ花の山はよよ五峯山なり

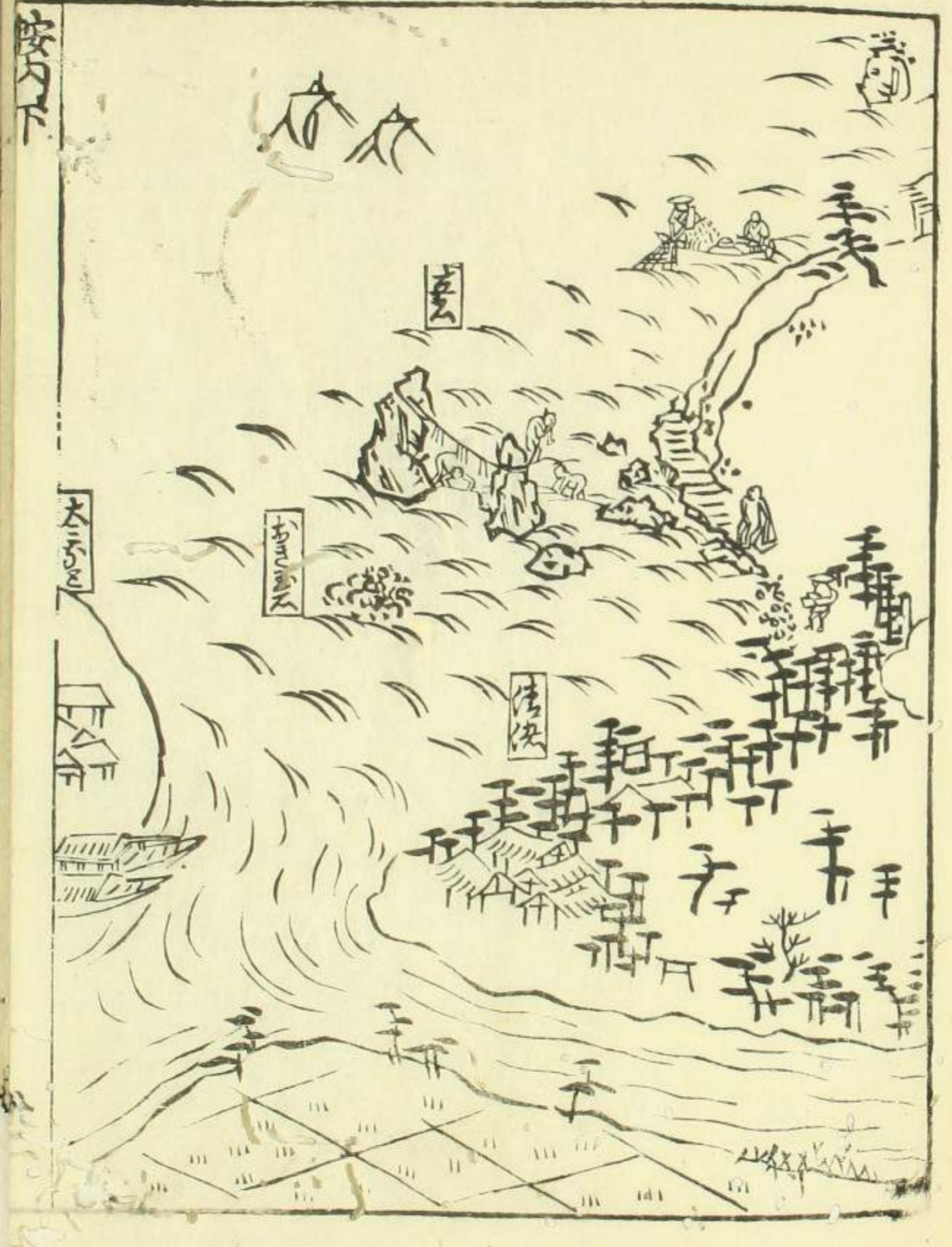
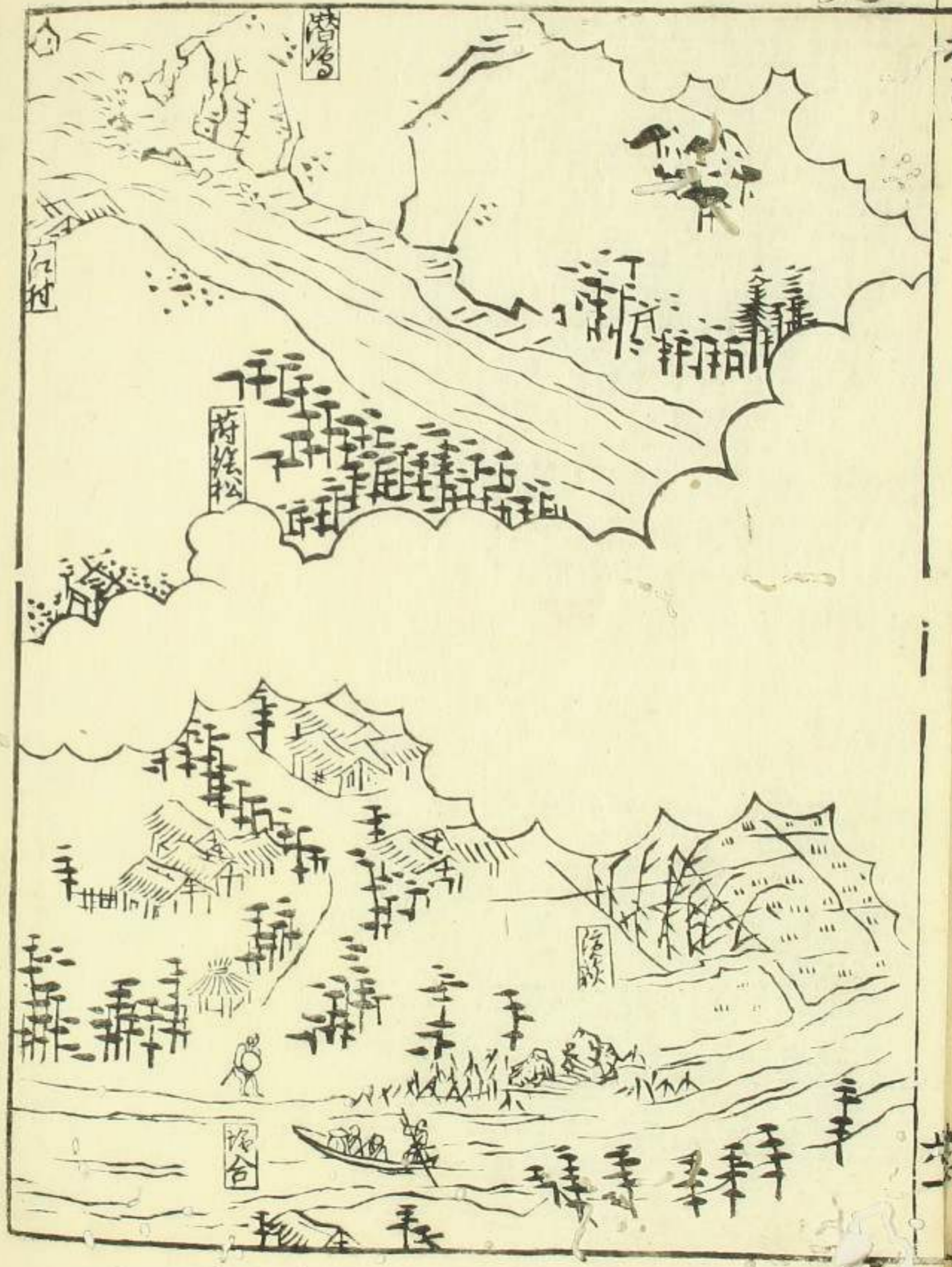
△蔭繪松二津村と江村よ  
ちよよ左を系をの

塩合を漕ゆくさ丸乃末のうらにらぬら系なり  
一本乃松をうらやいよよと或流よ長はよと山を  
纏ふゆよ纏江の松といよを蔭繪にまごうて  
款いよよまうといふ

金葉集

大中臣輔弘





陵下

大石

山

山

山

山

山



おまげ二見の浦に  
同いあつりの磯  
えとてついでをり  
三津村の南

濱萩 三津村の南

片篠乃 常れ 常れ 常れ  
濱萩といつりけ  
むりの濱萩田圃のこれ

西葉集

後人不知

神風やほれは濱萩わさせて

千載集

荻原基俊

あつるを信勢の濱萩わさて  
朝徒村より 車小二見浦  
より三津村よおと  
乃右女方に 湯乃森 姫子松  
江村 立る乃東の  
方の左西地  
立るをたよま  
乃山よよたまの松といふあり

△江神社三座 江村乃  
西よ左



長口女命

大歳御祖命

宇賀乃御玉命

河宮攝社二十四座乃内なり江村乃後の山

潮音山大江寺といふ寺を觀世音を安置せり

△神前山 江村を船後しよ  
越て向ふ乃山なり

△松下村 神前山  
の禁也

け村乃入口の森に蘇民社といふ社あり

△許母利神社一座 松下村海をへの  
る山乃よまを

粟山神御玉

後式帳名社十五所乃内なり粟山といふ

粟皇子社此山事あり

△神前社一座 神前山乃良  
乃方あり

荒前比賣命

ゆらみ社二十四座乃内なり毎年六月十五日

賀海社事といふと内なる神宮に濱あり

笏立石といふ石に笏を置きて荒前海松

を捕て由貴乃清饌に供進らるる



村下

△被<sup>く</sup>の<sup>り</sup> 社<sup>の</sup>前<sup>より</sup>西<sup>の</sup>

△結<sup>く</sup>の<sup>り</sup> 社<sup>の</sup>前<sup>より</sup>東<sup>の</sup>

離<sup>れ</sup>を<sup>り</sup> 山<sup>の</sup>尾<sup>の</sup> 磯<sup>の</sup> 穴<sup>あり</sup>

人<sup>乃</sup> 潜<sup>り</sup> ぬ<sup>け</sup> け<sup>ら</sup> ゆ<sup>る</sup> よ<sup>か</sup> く<sup>ら</sup> ま<sup>り</sup> け<sup>ら</sup> る<sup>る</sup>

潮<sup>満</sup> 満<sup>き</sup> を<sup>洞</sup> 乃<sup>は</sup> ま<sup>ま</sup> 々<sup>々</sup> た<sup>く</sup> えて<sup>海</sup> と<sup>ま</sup> り<sup>平</sup> ぬ<sup>き</sup>

△伊<sup>い</sup> 氣<sup>け</sup> 浦<sup>うら</sup> 入<sup>り</sup> 海<sup>なり</sup>

伊<sup>い</sup> 氣<sup>け</sup> も<sup>度</sup> 會<sup>の</sup> 郡<sup>乃</sup> 御<sup>の</sup> 名<sup>なり</sup> 入<sup>り</sup> 海<sup>なり</sup> ゆ<sup>へ</sup> ぬ<sup>き</sup>

鯛<sup>さう</sup> と<sup>の</sup> 小<sup>い</sup> 魚<sup>い</sup> け<sup>ら</sup> 入<sup>り</sup> み<sup>ら</sup> ず<sup>ら</sup> 網<sup>を</sup> け<sup>ら</sup> ぬ<sup>き</sup>

季<sup>き</sup> を<sup>り</sup> よ<sup>も</sup> 多<sup>く</sup> 捕<sup>ら</sup> ぬ<sup>き</sup>

△栗<sup>あ</sup> 皇<sup>き</sup> 子<sup>この</sup> 社<sup>の</sup> 一<sup>座</sup> 伊<sup>い</sup> 氣<sup>け</sup> 嶺<sup>の</sup> 在<sup>り</sup>

道<sup>みち</sup> 主<sup>の</sup> 命<sup>のみこと</sup>

内<sup>うち</sup> 宮<sup>みや</sup> 持<sup>もち</sup> 社<sup>の</sup> 二<sup>十</sup> 四<sup>座</sup> 乃<sup>の</sup> 内<sup>なり</sup>

△千<sup>ち</sup> 尋<sup>の</sup> 濱<sup>なみ</sup> 潜<sup>り</sup> 島<sup>と</sup> 磯<sup>の</sup> 在<sup>り</sup>

伊<sup>い</sup> 氣<sup>け</sup> 浦<sup>の</sup> 海<sup>の</sup> 子<sup>の</sup> 乃<sup>の</sup> 濱<sup>の</sup> 穴<sup>あり</sup> 乃<sup>の</sup> 内<sup>なり</sup>

又<sup>また</sup> 乃<sup>の</sup> 内<sup>なり</sup> 乃<sup>の</sup> 内<sup>なり</sup>

△濱<sup>あ</sup> 長<sup>ら</sup> 伎<sup>ぎ</sup> 嶋<sup>の</sup> 潜<sup>り</sup> 島<sup>と</sup> 磯<sup>の</sup> 在<sup>り</sup>

許<sup>ゆる</sup> 東<sup>の</sup> 北<sup>より</sup> あり

清原元輔



らむれ志まほしく八尋なるしてあふかたの信  
よの飛鳥よの誓海に神事此時船より訪ふ  
あまのこさや海をいし縁とわらせとけり  
くハ八尋なりと強く力まよ合の字と  
かてくとよあつたり

△立石崎よよ出

け去のくく父母乃喪を清まらる時先打越は  
よ行くと潮を潜り次よまゑのころさ乃行めく  
潜り次よ立るふて潜りて清らるる乃あ也

むう倭姫命大神を舟船よ載のりまりて三河川も  
大湊乃北の海を経給ひてけ仲をとらばら地  
給ひくと津雲しんぐも懼川乃末れ落合よつりそ  
流まより舟船入らぬ給ひくと今の宮地よ清  
給るまうしくまるとくや

△打越濱つゝしのりの

父母乃喪服を降ぐ時あふく潮あまらる

新名所歌合

若木田延行

伊勢のやばら打越は月うきて境風あつたまの



高城濱

△高城濱 たかくらひのへま 今一色村乃 今のいちしきむら

東の濱より

毎年九月十三日あき神濱かみはら乃神事かみまこととて亦家の  
神直は濱より行く被を修おことて後泊をあらと  
はまより給ふ濱ありさるゆへに俗に長官濱ちやうくわんはら  
ゆふたり又けさりにあむ神の清境をとらるの  
濱ありとて渚よなる居たり  
△清渚 しみづ 松下村より今一色村  
色々の後傳いをと云  
まゝ不亦城なる城もけ渚乃内なり

續後拾遺集

大伴軍記

（女川の港と清渚の伝説）

是より大港をたよなりて神社村へ向く漕舟  
より潮平しやひて船行ぐとて神社の船を急て漕こ  
路みちふるや山田まゝ一里あり潮満うしほなりゆめ  
とて河津よめかき

凡二見ま一郷乃總名にこそ内を七郷よわ  
うらり七郷乃内出で口とて郷を絶とて今ハ  
舞とてまゝ宇治とて内を二郷よと  
つら内とて内を十郷よと

高城濱

高城濱



がぶらう一丈二見の東北を荒海ありて西  
入江の廻りとなりてこゝ中に六郷乃かこまれ  
て進む向ふ所なる系よありては二見  
鏡けりての係姫命の大若子命は所なる名を問  
給ひて速兩二見の國とありて給ひたり  
名なるりては委く倭姫命世記よ見たり  
柞二見の郷を往昔より兩大神乃所領あり  
と近古武家よ押領せりて年経に寛永ニ  
中にえのこゝに兩大神は所附ありて御座

勤仕乃并後役まゝに神免許ありて實は社  
を敬ひ民を恵むゆゑに神政そとに  
ねと千案の名をまゝに清渚乃を拾ふ  
是る事ありて天つ下平けく安まると古の神代  
代を今も移りて二見の名もあつたり

伊勢系宮内記卷下





寶永四丁亥歲

書林

勢州山田一志

藤原長共衛

京寺町松原下町

今井喜共衛

九月吉日

講古堂藏版神書目錄

舊事記古事記 <small>八冊</small>	御即位 本筆會	御代始鈔 <small>全</small>	一條禪岡御撰
同 齧頭 <small>八冊</small>	神道八箇圖 <small>一冊</small>	小田成	
首書陽復記 <small>二冊</small>	大八洲圖說 <small>一冊</small>	同	
<small>二所皇 太神宮</small> 遷幸要略 <small>一冊</small>	天津罪圖說 <small>一冊</small>	同	
<small>二所皇 太神宮</small> 遷宮次第記 <small>五冊</small>	續神異記 <small>寶永四年 吳復之記</small> <small>二冊</small>	度會屋乘	
<small>二所 太神宮</small> 宮司神事供奉記 <small>三冊</small>	伊勢叅宮案内記 <small>二冊</small>	秦忠治	
<small>二所皇 太神宮</small> 神名略記 <small>一冊</small>	世中百首繪鈔 <small>三冊</small>	荒本田守武	
神事隨筆 <small>一冊</small>	伊勢二宮一社傳 <small>一冊</small>		
首書延喜太神宮式 <small>一冊</small>	神道明辨 <small>一冊</small>	慶長	

出口延佳

出口延經

同

同

同

同

同

同

同

同

同



葵心集

度會延貞一冊  
祝壽篇

中臣秘

折本 一冊  
平假名附

出口延佳

伊勢服忌令

一冊  
折本

伊勢二見浦圖

掛物  
折本

秦清薰

二所太神宮  
攝社末社

黍詣要路圖

掛物  
折本

同

伊勢  
豐宮崎

御田祭之圖

掛物

伊勢外宮之圖

掛物  
出口延佳

伊勢内宮之圖

掛物  
同

伊勢太々御神樂圖

掛物

神代之圖

掛物

出口延佳

御託宣

掛物

同書字

神書寫本色々

伊勢山田一志町

藤原長兵衛

元文四巳未年

三月吉日

書林

京寺町松原下町

菊屋喜兵衛



